

ヘルスマーター

アナフィラキシーへの第一選択薬 アドレナリン自己注射薬(エピペン®)

副腎は腎臓の上部にある小さな臓器で、外側を副腎皮質、内側を副腎髄質と呼び、それぞれ異なるホルモンを生成・分泌しています。薬剤として有名なステロイドホルモンは、実は副腎皮質で生成・分泌されています。

アドレナリンは副腎髄質ホルモンの1つで、交感神経が指令を出して分泌されます。交感神経は副交感神経と共に自律神経系を構成し、体内環境のバランスを一定に保っており、ストレスがかかった時に優位になります。緊張した時や運動時にドキドキしたり呼吸が荒くなったりするのは、アドレナリンの作用によるもので、心臓の拍動を増やし血圧を上げ、気管を広げて呼吸を促進し肺に多くの酸素を送り込みます。

アナフィラキシーとは

主に食物摂取時、薬剤服用時や蜂に刺された際、数分(～数時間)で全身の発疹や口唇の腫れなどの皮膚症状、腹痛・嘔吐・下痢などの消化器症状、咳・喘鳴ぜんめいなどの呼吸器症状などが同時に複数臓器に出現することを言います。加えて全身の血管拡張による血圧低下により脳への血流も低下して意識障害がみられる状態をアナフィラキシーショックと言い、死に至る場合がある怖い症状です。

アドレナリン自己注射薬(エピペン®)

アナフィラキシー症状が出現した時の第一選択薬が、血管を収縮させて血圧を上げ、気管を拡張し呼吸を促進するアドレナリン(エピペン®)の筋肉注射です。自己あるいは周りの人が注射することで早急な対応ができるようになりました。

使い方は安全キャップを外して、太ももの前外側に押し付けたまま数秒間待って太ももから外します。衣服の上からでも注射できます。使用の際には色々な条件や注意事項がありますが、迷ったら使用するのが良いとされています。

ただしアドレナリン自己注射の効果は15分程度で、症状が軽減しても再度アナフィラキシー症状が出現する可能性もあります。あくまでも医療機関受診までのつなぎであることを忘れないでください。